

令和3年度2学期終業式あいさつ

皆さん、こんにちは。

今日で2学期が終わります。皆さんにとって、この2学期はどんな学期でしたか？今日は2学期を少し振り返りながら、皆さんにメッセージを送りたいと思います。

今年度も2学期の前半は緊急事態宣言が出され、本校の教育活動も大きな制約を受けました。2回にわたる臨時休業、部活動の原則休止、形態を大きく変更しなければならなかった2年ぶりの体育祭、延期を余儀なくされ、行き先が北海道から南九州へと変わった2年生の修学旅行、皆さんにとってはつらいことが多かったと思います。しかし、そのような中で、「今できることは何かを考え、工夫する」、「今しかできないことに集中する」、「そして、その中で楽しむ」。そんな皆さんを見ていて、私は改めて暇高生の逞しさを感じました。コロナ禍は辛いことが多く、マイナス面ばかりが強調されますが、皆さんを見ていると、コロナ禍での学びや経験が皆さんを成長させ、今後の人生にとってかけがえのない財産をもたらしていると実感した2学期でした。

さて、3年生は、共通テストまで1か月を切りました。プレッシャーを感じている人も多いと思います。2年生はあと1年後、1年生は2年後には同じ立場になります。大学受験を含め、これから生きるためにはどのような能力が必要なののでしょうか。12月3日付のある新聞にとても興味深い記事が掲載されていたので紹介したいと思います。書いたのは、世界に通じるバイオリン奏者であり、テレビコメンテーターとしても活躍する廣津留すみれさんです。一部を端折りながら、できるだけ原文に近い形で紹介します。

「私は、大分県の公立高校から、米国のハーバード大学に進学しました。受験時や在学中に感じたのは、『自分について熱意をもって語れるもの』を持つことの大切さでした。試験で満点をとれる人は、たくさんいますが、それだけでは合格できない。学力のほかに重視されたのは、課外活動の履歴、性格など人としての力です。・・・暗記など受験のための勉強の内容を、熱意をもって語るのは難しいでしょう。何よりも、自分の好きなことを学び、自分だけのストーリーを持つことが大切です。冥王星についてひたすら語れるでも、カマキリの生態に詳しいでも、何でもいいと思うんです。それ

が自信になり、心に余裕が生まれます。ひいては、周りの人がしてきた努力を想像する力にもつながります。

チェロ奏者のヨーヨー・マとシルクロード・アンサンブルとの共演でも、その大切さを痛感しました。みんな演奏を通じて自分のストーリーを語るのです。それぞれの背景を音に乗せてお客さんの心に届ける技に衝撃を受けました。世界中どこへ行っても、あいさつや人の目を見て話す・聞く、という基本的なコミュニケーションを身につけることが信頼につながると改めて学びました。・・・能力を測る基準が、学歴だけになるのは問題です。学歴は『努力した人』という指標になっても、創造力やコミュニケーション能力、人柄などは測れません。基準はできるだけ増えたほうがいいと思います。これからの時代に必要な人間の才能は、いろいろな側面に隠れていますから。」

どうですか？皆さんは、「自分について熱意をもって語れるものを持っていますか？自分だけのストーリーがありますか？基本的なコミュニケーションはどうですか？」私が皆さんに大切にしてほしいのは、廣津留さんのいう「人としての力」です。受験勉強をめちゃくちゃ頑張っている。あるいは頑張ってきた。誰にも負けないほど部活動に励んでいる。あるいは励んできた。友達と協力して課題研究に力を注いできた。毎日勇気を振り絞って登校している。本当に何でもいいんです。「人としての力」は人によって異なります。そして、それは皆さん独自の1人ひとりの宝物です。それを大切にしてください。特に受験を間近に控えた3年生の皆さんは、焦る今の時期こそ、自分が今まで培ってきた「人としての力」を信じて、自信をもって最後まであきらめずに頑張ってください。期待しています。

最後に今日で2学期は終わりますが、2学期を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを大切にしてください。友達、家族、担任の先生や部活動の顧問の先生に「ありがとう」という言葉で表現してみてください。今日はクリスマスイブ。心が温かくなるはずです。

オミクロン株の市中感染も確認されました。冬休み中も感染予防に努め、健康に十分留意して、3学期、元気に登校してきてください。

以上で終業式の挨拶を終わります。